

トップ画像写真「志免町」について

志免町は、福岡市の中心部から約8キロメートル東に位置し、福岡市や福岡空港に隣接しています。総面積 8.69 平方キロメートルで南北に細長く、県内では3番目に小さな町です。

明治22年に田富・吉原・志免・南里・別府・御手洗の6カ村が合併し、「志免村」となった後、昭和14年には町制を発足して「志免町」となりました。

昭和39年に炭鉱が閉山して以降、福岡市のベッドタウンとして発展してきました。福岡空港へのアクセスも良く、世界に一番近い町と言えます。人口も増え続け、全国の町村の中でも高い人口密度を誇っています。

平成31年4月には、町制施行80周年を迎えました。この機を新たな時代の幕開けと捉え、誰もが輝く住みよいまちづくりにより一層励み続けています。



【旧志免鉱業所竪坑櫓】

国指定重要文化財(平成 21 年 12 月に指定)の「竪坑櫓」は、高さ 47.6mの巨大な志免町のランドマークタワーです。

この建物は、石炭発掘当時、ケージと呼ばれる籠を昇降させるために造られた巨大なビルディングです。この櫓の真下にまっすぐ掘られた深さ 430mの「竪坑」という穴を使い、地下から石炭を上げたり、鉱員を地下の石炭層まで移動させていました。

現存する類似の建物で、世界中では、志免町のほかにベルギー(ブレニー)と中国(撫順)の 2 か所だけです。その姿は、機能的で無駄のない造形美をもつ近代建造物であり、世界の産業技術史を語る上でも大切な遺産といえます。



シメッチャ

【シメッチャ】

平成 31 年4月に町制 80 周年を迎えたことを記念して、町の公式キャラクター「シメッチャ」が生まれました。

志免町は、宇美八幡宮のしめ縄が張られた土地であることから「志免」の地名となった説があります。

シメッチャは、その「しめ縄」をモチーフにした角を持ち、頭と体には志免町の「S」と「M」の模様が入っている羊のキャラクターです。子どもたちと一緒に遊ぶことができるように活発なイメージで作製(イラストレーター中村ヤスオ作)されています。

【平成の森公園】

この公園は、森に囲まれた自然豊かな公園で、バーベキューサイトや芝生の広場があり、奥の森を分け入ると、約 10 分で展望広場へ。その近くには木製の遊具や平均台、ターザンロープなどのアスレチックがあり、子どもたちの遊び場にぴったりです。

また、展望広場横の板碑広場には、南北朝時代の農民によって建てられたという「吉原の板碑」があり、さらに遊歩道を進むと「松ノ尾古墳」もあります。近くには 103m のローラスライダーがあり、一気に芝生広場に戻ることができます。小さな子ども向けには 20mのミニスライダーもあります。

【イルミネーション】

中の坪公園にある石炭の原木の一種であるメタセコイアの木で、炭鉱の町として発展した町のシンボルツリーともいえる存在です。

毎年、この木にイルミネーションを点灯するイベントがおこなわれ、今年は 11 月 16 日に点灯式イベントを実施予定です。

この光には、「希望の光」として未来へつなぐ思いが込められています。

点灯期間は 1 月上旬まで。夜空を美しく照らす「まちのシンボルツリー」を見に、どうぞお越しください。

